

# 「教育・学習」の活動をやってみましょう

——教材「紙芝居」・体験学習プログラム指導案の使い方——

■「教育・学習」の活動をやってみたい。けれど、内容や参加者の集め方がわからない…。体験イベントを実施しているけれど、「教育・学習」の要素はいまひとつ…。そんなお悩み解決の一助となるよう、教材と体験学習プログラムの指導案を用意しました。

教材は「紙芝居」形式なので、スライドショーであるいはプリントアウトして、そのまま使えます。シナリオ例つきなので、「お話」の内容を一から考えなくても OK。テーマは、藻場、干潟、サンゴ礁、河川、アユ、海ごみ（海洋プラスチック）の6種類です。

■体験学習プログラム指導案は、教材「紙芝居」と組み合わせて実施できる、体験学習の案です。事前学習で「紙芝居」の座学を行うことや、体験学習の中に「紙芝居」を組み込むことで、厚みのある「教育・学習」の場を提供できます。

■「教育・学習」の活動は、水産多面的機能発揮対策の活動を広く知ってもらい、地域に活動の輪を広げる「チャンス」です。さらに、漁村の人と漁村外の人たちとの「顔と顔」の交流を生み、漁村や漁業・水産業の価値を高めることにもつながります。

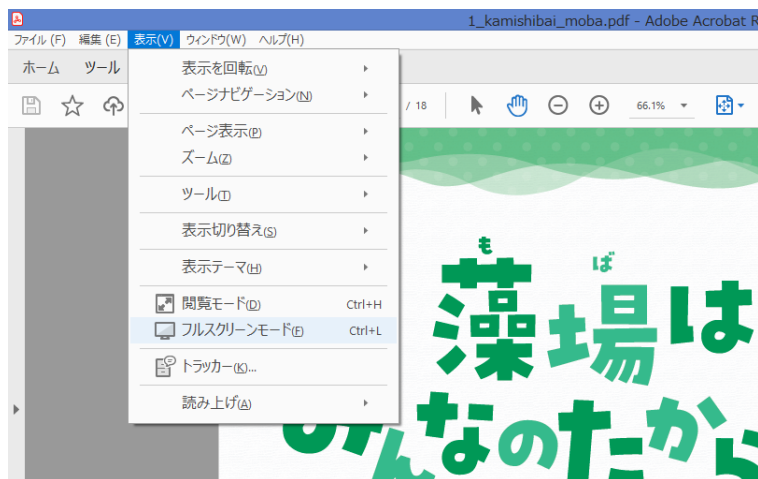
「教育・学習」の活動にチャレンジしてみたいはかがでしょう。

## 「紙芝居」のトリセツ（取扱説明）

### 超簡単！今日から使える

#### ■スライドショーで使う

- ・ プロジェクターで投影するスライドショーの場合は、左上の「表示」をクリック、「フルスクリーンモード」をクリックすると、全面に画面が表示されます。



- ・ ページ送り（戻り）は、エンターキーや十字キーで操作します。
- ・ 元の画面に戻すには、エスケープ（Esc）キーを押します。



### ■プリントして使う

- ・ A3 サイズにプリントしてください。コンビニのプリンタでもプリントできます。
- ・ A3 サイズのスケッチブックを用意し、プリントしたものを貼ると、ページの順番が乱れたりばらばらになったりせず、とても便利です。
- ・ また、「シナリオ例」を使う場合には、紙芝居のページごとに切り離して（前述のスケッチブックの紙芝居の裏面）に貼ると、解説の進行に役立ちます。
- ・ 参加者の人数が多く、紙芝居の画面が見にくい場合は、3、4人ずつに班分けして、班に1冊ずつスケッチブックに貼った紙芝居を用意するといいいでしょう。
- ・ 細かいイラストのページは、班ごとか1人1枚プリントを配布すると見やすいです。

### ■シナリオ例を活用する

- ・ 6種類の紙芝居それぞれに、「お話」（解説）のシナリオ例を用意しました。どのページで何を伝えるのか、ガイドとして活用することができます。
- ・ 左の欄には「お話」の例、右の欄には資料や補足の解説、各地域の活動にひきつけた応用の案を紹介してあります。参考にしてください。

## 写真のサシカエが可能！

- ・ マークがついている写真は、差し替えることができます。活動しているフィールドの写真や、活動の様子などの写真を入れてみましょう。
- ・ マークをクリックすると、「画像を選択」画面が出ます。「参照」をクリックすると、使っているパソコンのファイル一覧が出ます。使いたい写真データを選び、「開く」をクリックすると、写真が入れ替わります。
- ・ 元に戻す（選んだ写真を消去、やり直す）には、写真をクリックすると「画像を選択」画面が出ますので、青字の「画像をクリア」をクリック、OK をクリックします。

## 「紙芝居」の実用にあたって

### こんな場面で活躍！

#### ■子どもから大人まで幅広く

- ・ 小学校中学年くらいで理解できるよう、わかりやすい内容と親しみやすい表現を心がけました。また、なるべく小学校4年生までに習う漢字を使用し、5年生以上で習う漢

字や専門用語には、ふりがなをつけてあります。

- ・ 紙芝居のすべてのページを活用する必要はありません。参加者の年齢、持ち時間などから構成を考え、利用してください。
- ・ 未就学児向けには、イラストページを活用した楽しい学びも可能です。たとえば、藻場やサンゴ礁のイラストでは生物多様性を、川のイラストでは水の循環や暮らしとのつながりなどを学びます。親子対象のイベントなどにご活用ください。

### ■出前授業や、イベントにぴったり

- ・ 屋内での座学にも、海や川などフィールドでの体験学習にも、活用できます。
- ・ これまでに実施している海遊びや川遊びの体験イベントに取り入れると、「体験」だけでなく、「学び」の機会も提供できるようになります。
- ・ 「学び」の要素が加わると、地域の学校に出前授業を提案しやすくなります。
- ・ 環境フェアやお祭りなど、地域のイベントに参加して、保全活動の広報を行うツールとしてもぴったりです。

## 「伝わりやすい」ちょっとした工夫

### ■声と思いを届ける

- ・ 参加者ひとりひとりに声が届き、目と目が合う距離を保ちましょう。声が届き目線が合えば、みなさんの保全活動に対する「思い」も届きやすくなります。
- ・ 参加者が多いときは、①班に分けて班ごとにスタッフがサポートする（紙芝居は各班に用意）、②班に分けてローテーションで対応する、などの工夫も考えられます。
- ・ 野外で紙芝居を使って「お話」をするときは、風や直射日光、騒音などの影響を受けない環境を整え、参加者が快適に「お話」に集中できるようにしましょう。

### ■交流をたいせつに

- ・ 必ず名札をつけましょう。とくに子どもが対象の場合には、名札にニックネームを記すと、ぐっと親しみやすさが増します。
- ・ 参加者を数人の班に分け、班の担当者を決めます。学習や活動のサポートだけでなく、積極的に会話することを心がけ、参加者との交流を深めましょう。

### ■質問をして考えてもらう

- ・ 一方的に話し続けるのではなく、ところどころで参加者に問いかけ、参加者に考えてもらう質問を1つ2つ用意しましょう。「受け身」で聞いた話は、記憶にも心にも残りにくいものです。
- ・ 質問のテーマは、持ち時間と参加者の特徴、全体の構成などから考えましょう。
- ・ 質問の答えを考えてもらう際は、①1人で、②隣の人と（親子で）、③数人の班で、などのケースがあります。最初は1人で考え、次に何人かで意見を交換する方法もあります。考えたことを班の代表に発表してもらってもよいでしょう。

### ■「自分ごと」として共感を得る

- ・ 藻場、干潟、サンゴ礁、河川、海洋で起きている問題を、参加者それぞれに自分の生活にひきつけ、「自分ごと」として考えてもらうようにしましょう。
- ・ 問題が「自分ごと」になれば、保全活動への共感が生まれ、さらには活動に参加する意欲が生まれることも期待できます。仲間を得るチャンスとしてうまく活用しましょう。

### ■最後に「振り返り」をする

- ・ 最後に、気づきや感想をまとめる「振り返り」の時間をもちましょう。「振り返り」は、学んだことを咀嚼して自分のものにするための重要な作業です。時間があれば1人ずつ発表してもらい、参加者が多い場合などは班内で発表し合います。感想を共有することで、理解はあっという間に深まります。
- ・ 感想文を書いてもらうのもいい方法です。学校の出前授業では、感想文や地域の人へのお礼の手紙など、先生が「振り返り」を授業に組み込んでくれることもあります。

### ■「本物＝リアル」を強みに

- ・ 学校の先生ではなく、漁業者による「教育・学習」には、「本物」という大きな価値があります。自己紹介や学習の前後に、自分の仕事の内容や地域漁業の概要を紹介しましょう。漁業者ならではのエピソードも紹介すると、より興味深いものになるはずです。
- ・ 漁具や水産物、保全活動で使用している器具、駆除している生き物の実物や写真などを用意すると、「お話」はさらに印象深いものとなるでしょう。

### ■時間の配分、内容を調整

- ・ 教材「紙芝居」は、すべてのページを使う必要はありません。参加者の年齢、持ち時間などから構成を考え、時間をはかってリハーサルをしてみましょう。

## 学校で「出前授業」を行うには？

地域の学校での出前授業は、究極の「地域教育」です。しかし学校と連携するには、数々の配慮が必要です。ポイントをいくつか紹介します。

- ・ 校長先生を訪ねて相談する：自作の教材や「紙芝居」、体験学習の案などをまとめ、校長先生を訪ねます。学校によっては、副校長先生が窓口のところもあります。
- ・ 前年度のうちに日程を相談する：学校の行事や授業の時間割は、前年度の3月中に決まってしまうので、4月以降だと、出前授業を入れる余地がない場合があります。
- ・ 学年や教科を相談する：出前授業を組みやすいのは「総合的な学習の時間（総合学習）」という教科です。総合学習で地域学習を行う学校は多いです。また、理科や社会などの教科で検討してもらえ、可能性もあります。なお小学校での水産業の学習は、5年生の社会科で9月ごろに行われています。
- ・ 担当の先生と内容を相談する：出前授業の学年と教科が決まったら、担当の先生と内容をブラッシュアップしましょう。先生は多忙なので、原案を出すといいでしょう。

- ・ 主体的・対話的で深い学び：文科省の最新の「学習指導要領」に「主体的・対話的で深い学びの視点」が登場しました。児童生徒が「主体的に課題を見つけ、話し合いながら解決の方法を考える」学び方です。出前授業では、一方的に知識を伝えるのではなく、子どもたちに「考えさせる」機会も用意するといいいでしょう。
- ・ 本物の体験、地域の人との交流を武器に：地域教育の強みをアピールしましょう。
- ・ 安全管理の体制づくりは学校と一緒に：海や川などでの体験学習を提案する場合には、事前に安全管理についてまとめ、学校に提示しましょう。体験学習の実施が決まったら、安全管理の体制は学校側と話し合っって一緒に練り上げましょう。
- ・ 自由参加のイベントで広報に協力してもらおう：授業時間内での出前授業がむずかしい場合でも、土日や夏休みのイベントの広報に協力してもらえることがよくあります。募集案内のチラシを学校の昇降口や教室に貼ってもらったり、興味のある児童生徒が持ち帰れるようにしてもらったり、協力を相談してみましよう。

## 体験学習プログラムを実施する際の安全管理

### ■安全管理の指導団体

海や川などの体験学習では、安全管理の体制づくりは必須です。次のような指導団体があります。コンタクトをとり安全管理（リスクマネジメント）の基礎を身につけましよう。また、万が一の事故に備え、必ず保険に加入ましよう。

CONE（コーン）：NPO 法人 自然体験活動推進協議会 <https://cone.jp/>

団体の概要：自然体験、環境教育などの団体が集まる国内最大のネットワーク組織です。

指導者の養成、安全管理の普及啓発、講習などを行っています。

安全講習：毎年、全国 10 か所ほどの会場で実施しています。

テキスト：以下の販売があります。

◆「自然体験活動指導者 安全管理ハンドブック」1100 円（税込）

安全管理の基本を学べる、初中級者向けの必読書。事前の計画段階から、事故が起きた場合の対処法まで詳しく解説。フィールド別の危険ポイントも記されています。

◆「自然体験活動のリスクマネジメント」1100 円（税込）

CNAC（シーナック）：NPO 法人 海に学ぶ体験活動協議会 <http://www.cnac.or.jp/>

団体の概要：海辺の自然体験の普及、指導者養成、安全管理の普及啓発を行っています。

安全講習：セミナーを実施しているほか、有償で講師の派遣もを行っています。

テキスト：無料で PDF のダウンロードができます。

- ◆安全小冊子「海あそび安全講座」：子ども向け

[http://www.cnac.or.jp/img/safetybooklet\\_for\\_students.pdf](http://www.cnac.or.jp/img/safetybooklet_for_students.pdf)

- ◆「親子海あそび安全講座」：保護者向け

[http://www.cnac.or.jp/img/safetybooklet\\_for\\_leaders.pdf](http://www.cnac.or.jp/img/safetybooklet_for_leaders.pdf)

RAC（ラック）：NPO 法人 川に学ぶ体験活動協議会 <http://www.rac.gr.jp/>

団体の概要：河川の自然体験の普及、指導者養成、安全管理の普及のほか、ライフジャケットやヘルメット、ウェットスーツ、救命ロープなどの有償貸出も行っています。

安全講習：各種講座を実施しています。詳しくはサイトを参照してください

[http://www.rac.gr.jp/01topnav/images/rac\\_training\\_catalog\\_all.pdf](http://www.rac.gr.jp/01topnav/images/rac_training_catalog_all.pdf)

## ■体験学習プログラムの参考サイト

海辺の体験学習のプロがまとめたプログラムを無料でダウンロードできるサイトを紹介し  
ます。手軽なプログラムからチャレンジして、活動の幅を広げましょう。

LAB to CLASS <https://lab2c.net/>

サイトの概要：「教室に海洋教育を」を合言葉に、おもに学校の教員向けに編集された選  
りすぐりのプログラム集。海辺の自然体験や環境教育の全国ネットワーク組織「海  
辺の環境教育フォーラム」のノウハウを結集。無料でダウンロードできます。

収録プログラムの特徴：海の生き物、プランクトン、干潟、サンゴ礁、イルカ、海洋汚  
染などをテーマに、小中学校の授業で活用できる 31 種類のプログラムを収録。室  
内で行えるものもあり、荒天時の代替プログラムとしても活用できます。具体的  
な進め方のほか、指導者向けの詳しい解説シートも充実。

CNAC「なにこれ?!海あそびレシピ」<http://www.cnac.or.jp/recipe.html>

サイトの概要：海遊びの普及を目的に、30 種類の海辺の環境教育プログラムを収録。

収録プログラムの特徴：砂浜、干潟、磯、室内、漁業者との連携プログラムなど、テ  
ーマは多岐にわたります。また、安全管理のポイントもまとめられています。

(2020 年 3 月現在)